

2 研究の実際

(1) 〔共通事項〕について

〔共通事項〕は、小学校図画工作科と中学校美術科において一貫して育むべき資質や能力です。学習指導要領には、指導計画作成上の配慮事項として、〔共通事項〕は表現及び鑑賞に関する能力を育成する上で共通に必要なものであり、表現及び鑑賞の各活動において十分な指導が行われるように工夫することとあります。

学習指導要領解説によると、〔共通事項〕とは、表現及び鑑賞の各活動において共通に働いている資質や能力であり、児童生徒の資質や能力の働きを具体的に捉え育成するための視点として、表現及び鑑賞の各活動に適切に位置付けることが示されています(図 1)。

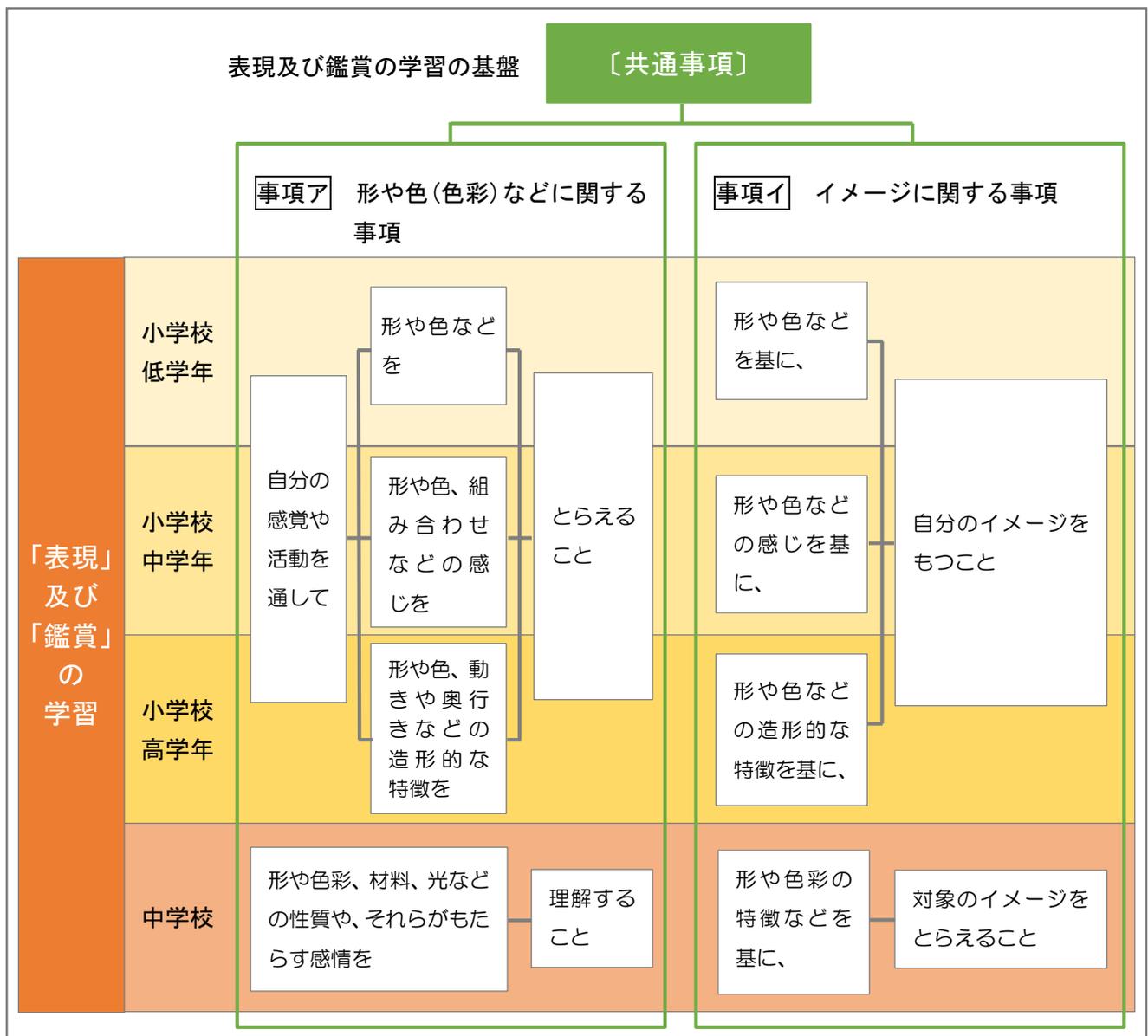


図 1 小学校図画工作科及び中学校美術科における〔共通事項〕について

〔共通事項〕は、小学校図画工作科から中学校美術科を通して、表現や鑑賞の領域、創作活動の内容に関わりなく、それらの活動を通して育むべき資質や能力は同じということを示しており、発達段階に応じて常に育むべき資質や能力を意識した指導が必要であるということになります。

小学校図画工作科では、指導事項のアで自分の感覚や活動を通して形や色などを捉えること、指導事項のイでは、自分のイメージをもつこととあり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、常に配慮しながら指導することが示されています。

中学校美術科では、指導事項のアで「形や色彩などの性質や、それらがもたらす感情を理解すること」、指導事項のイで「形や色彩の特徴などを基に、対象のイメージをとらえること」とあり、「A表現」及び「B鑑賞」の学習で具体的な学習活動を想定し、どの場面で指導するのかを明確にして指導計画の中に位置付ける必要があることが示されています。

児童生徒は発達段階に応じて、自分の思いで大まかに形や色を捉えるところから始まり、形や色などの様々な感じを捉え、形や色などの造形的な特徴を捉えるようになり、次第に形や色彩などの性質や、それらがもたらす感情を理解するようになります。このように、発達の過程で、形や色(色彩)を主観的に捉えていたものを客観的に捉えられるようになり、これを基に対象に対して自分なりのイメージをもつことから多様な視点で捉えたり全体のイメージを捉えたりするようになると考えます。

本研究では、以上のような発達段階を踏まえて、小学校図画工作科では第6学年の鑑賞領域を中心に、中学校美術科では第2学年の表現領域を中心に〔共通事項〕に含まれる造形的な特徴のうち形や色(色彩)に焦点化して研究を進めました。

(2) 「共通事項」を支えとした見方や考え方について

本研究では、「〔共通事項〕を支えとした児童生徒の見方や考え方」について次のように考えます。「〔共通事項〕を支えとした見方」とは、形や色(色彩)などの造形的な特徴をとらえる(理解すること)としました。また、「〔共通事項〕を支えとした考え方」とは、形や色(色彩)などの造形的な特徴を基にイメージをもつ(とらえる)こととしました(図2)。

「〔共通事項〕を支えとした見方」 〔共通事項〕アに関連	「〔共通事項〕を支えとした考え方」 〔共通事項〕イに関連
【小学校図画工作科】 ・形や色などの造形的な特徴をとらえる。 【中学校美術科】 ・形や色彩などの造形的な特徴を理解する。	【小学校図画工作科】 ・形や色などの造形的な特徴を基に自分のイメージをもつ。 【中学校美術科】 ・形や色彩などの造形的な特徴を基に対象のイメージをとらえる。

図2 本研究における「〔共通事項〕を支えとした児童生徒の見方や考え方」

(3) 小・中学校を見通した形や色(色彩)を意識した言語活動について

「言語活動の充実に関する指導事例集」では、思考力・判断力・表現力等を育むためには、各教科等において記録、要約、説明、論述などの言語活動を発達の段階に応じて行うことが重要であると示されています。

小学校図画工作科から中学校美術科までを見通した指導方法を探るため、教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項において、発達の段階に応じた指導の留意点を整理しました(表1)。表1から、思考力・判断力・表現力等の育成は、主に発想や構想の能力と鑑賞の能力の育成に関連するとともに、小学校図画工作科で培う能力を中学校美術科で一層伸ばすための指導が重要であることが分かります。また、学習指導要領解説には指導計画の作成上の配慮事項として、〔共通事項〕を視点に資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫することが示されています。

表 1 教科等の特質を踏まえた指導の充実及び留意事項

※ 「 」は、〔共通事項〕に関わる記述。「 」は、指導の充実例。

	小学校図画工作科（「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」より ⁽¹⁾ ）	中学校美術科（「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」より ⁽²⁾ ）
指導の 充実に 関わる 記述	表現や鑑賞の活動において、 <u>形や色、材料の感じ、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえながら、感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどの学習活動を充実する。</u>	表現や鑑賞の能力を育成する観点から、 <u>形や色彩、材料の感情効果やイメージなどをとらえながら、アイデアスケッチ等により発想や構想を練ったり、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして幅広く味わったりするなどの学習活動を充実する。</u>
表現の 留意事 項	発想や構想の能力、創造的な技能を高めるために、 <u>材料や場所の特徴、表したいことや用途などについて、考えたことを伝え合ったり、形や色、材料の感じなどを生かして表現したりするなどの学習を一層重視する。</u>	発想や構想の能力を高めるために、 <u>アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりするなどの学習を一層充実する。</u>
鑑賞の 留意事 項	鑑賞の能力を高めるために、 <u>感じたことや思ったことを話したり、友人と語り合ったりしながら、材料による感じの違い、表し方の変化などをとらえ、身近にある作品や親しみのある作品などのよさや美しさなどを感じ取るような指導を充実することが望ましい。</u>	鑑賞の能力を高めるために、 <u>作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と表現の工夫、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取り、対象の見方や感じ方を広げるなどの学習を一層充実する。</u>
指導計 画の留 意事項	<u>形や色、イメージなどの〔共通事項〕を視点に、図画工作科で育てようとする資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫することが重要である。</u>	<u>形や色彩、イメージなどの〔共通事項〕を視点に、美術科で育てようとする資質や能力を具体的に育成するような言語活動の充実を工夫することが重要である。</u>

本研究では、平成 20 年 1 月の中央教育審議会答申に挙げられている思考力・判断力・表現力等の育成を図るための学習活動を分類した 6 項目⁽³⁾のうち、学習課題に応じて小学校図画工作科においては、次の①と⑥の項目で、中学校美術科においては、②、③、④、⑤、⑥の項目で、形や色(色彩)を意識した言語活動を取り入れることができると考え、研究を進めました。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

(1) 文部科学省 『言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】』 平成23年10月 教育出版 p.14

(2) 文部科学省 『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』 平成23年5月 教育出版 p.13

(3) 文部科学省 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）』 平成20年1月
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/05/12/1216828_1.pdf

(4) 形や色(色彩)を意識した学習過程

本研究では、〔共通事項〕を支えとし、小・中学校を通して児童生徒が見方や考え方を深める学習過程を図3のようにしました。形や色(色彩)を意識した言語活動を取り入れた学習過程を繰り返

すことで、児童生徒の見方や考え方を深めていきます(図 3)。

形や色(色彩)を意識した創造活動及び交流活動を行うために取り入れた言語活動は、次の通りです。表現活動では、中学校において、主に発想や構想の段階で形や色彩を意識してアイデアスケッチ等により構想を練ったり、言葉で考えを整理したりします。また、他者と 1 つの課題に対して構想を練る場面を設定しています。鑑賞活動では、小学校において、形や色を意識して感じたことや考えたことを話したり、友人と話し合ったりするなどの活動を行います。中学校においては、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどの活動を行います。本研究では、創造活動の中で、他者とコミュニケーションを図り、考えや思いを交流させる活動を交流活動と位置付けています。

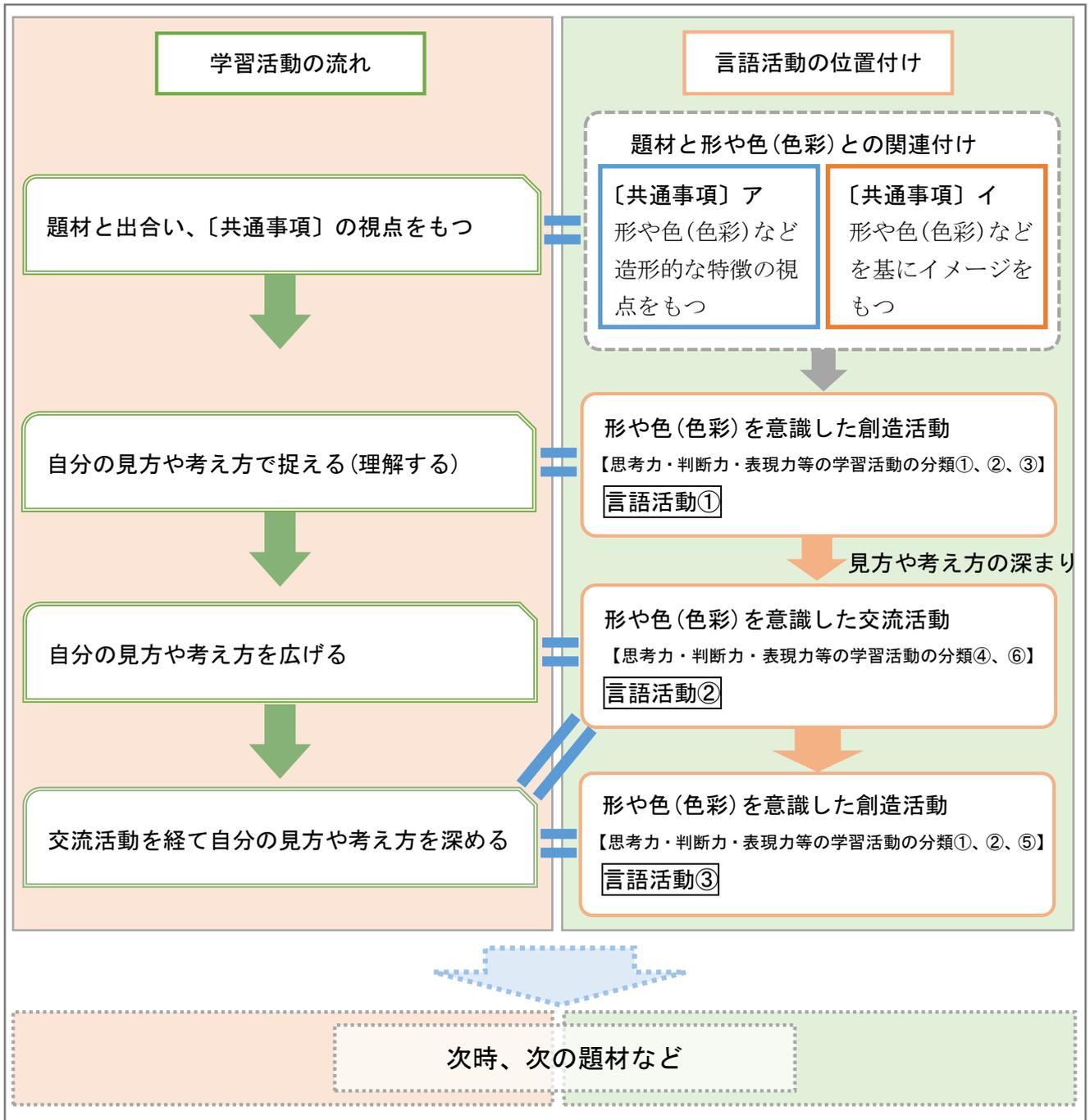


図 3 児童生徒の見方や考え方を深める学習活動の流れとそれに対応した言語活動